Fukuoka Asian Art Museum
Art Exchange Programs
Annual Report 2021-2022

令和 3 年度
福岡アジア美術館交流事業報告書（『年報』抜粋）

福岡アジア美術館
Fukuoka Asian Art Museum

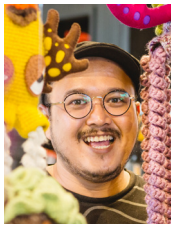
交流事業

交流事業　1　招聘事業

本事業は、アジア各地で活躍する美術作家や研究者・学芸員等を福岡に招聘し、市民との共同制作やワークショップ、トークなどの美術交流事業をおこなうことで、市民がアジアの美術・文化に対する興味を高め、理解を深める一助となることを目指すとともに、アジア美術を取り巻く状況の活性化を目的としている。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大による入国制限で、海外より美術作家を招聘することができなかったため、オンライン・レジデンスとして実施した。

＊[令和3年度 文化庁 アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化促進事業]



ムルヤナ
(インドネシア)[美術作家]

1984年生まれ
ジョグジャカルタ(インドネシア)在住
オンライン・レジデンス期間:2022年2月9日(水)～3月27日(日)

□主な活動

①作品制作

福岡の海と人魚伝説をテーマに、オンラインでリサーチを行いながら、博多区冷泉町にある龍宮寺の人魚伝説に触発されたインスタレーション作品《サガラ》を制作。サガラとは人魚の姿をした空想上のモンスターであり、作者の母語であるスンダ語で「海」を意味している。また、現代人が人気スポットで動画や自撮りをしながら世界を歩き回るように、サガラが各地を歩き回る映像作品も合わせて展示した。

《サガラ》2022年、福岡アジア美術館

《サガラ》2022年、福岡アジア美術館(部分)

②ワークショップ

3月13日(日)、19日(土)
アップサイクル・ワークショップ「レジ袋でしおりをつくろう！」
使用済みのレジ袋を重ねてアイロンで熱し作家が描いた台紙を使い、しおりの形に切る。最後は使用済みのレジ袋をひも状に加工し、かぎ針で編んだ紐を取り付けた。参加者オリジナルの「しおり」をつくるワークショップ。

ワークショップの様子

参加者:一般参加者10人(13日6人、19日4人)
場　所:交流スタジオ

③トーク

3月26日(土)
「福岡アジア美術館レジデンス事業　ムルヤナ作品公開＆トーク」
参加者:一般15人　　場　所:M8ラウンジ

トーク

交流事業　2　受入支援事業

他の機関から助成等を受けて自費で福岡に滞在し、作品制作や調査研究を行うことを希望するアジアの美術作家やアジア美術の研究者・学芸員に対して、制作や調査・研究活動を支援するもの。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年も昨年に引き続き、海外から美術作家等の招聘ができず、本事業の実施を次年度に延期した。

交流事業　3　地域交流事業

「博多リバレイン灯明」

毎年10月に開催されている地域イベント「博多リバレイン灯明」へ、当館に滞在中の招聘アーティストがデザインを提供しているが、今年も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本イベントの開催が中止された。

交流事業　4　事業活動紹介展示

交流事業における招聘事業および受入支援事業の過去の取り組みや、進行中のプログラムの様子をより多くの人に伝えるために、「あじびレジデンスの部屋」と題した記録展をアジアギャラリーで実施。

第１期　レジデンスことはじめ―タン・ダウ

展示風景

2021年4月15日（木）～6月22日（火）

当館では開館以来、アジア各国からアーティストや研究者が福岡に滞在し、作品の制作や研究を行ってきた。本展では、シンガポールの現代美術を牽引してきたアーティストであり、当館最初のレジデンス・アーティストでもあるタン・ダウ（シンガポール）を、1999年9月から6ヵ月間の滞在中の活動を通して紹介した。

第２期　つくってふれてアジアの文化

ポスター

2021年6月24日（木）～9月21日（火）

「夏のワークショップ特集」として、アジアの文化について理解を深めるために実施された3人のアーティスト（アラク・ロイ〔バングラデシュ〕、クルパ・マーヒジャー〔インド〕、レ・ヒエン・ミン〔ベトナム〕）による過去のワークショップを、作品や記録写真などによって紹介した。あわせて、アーティストが福岡滞在中に制作した作品も展示した。

関連事業

◇ワークショップ「ベトナムのお面を作ろう！」（オンライン開催）

レ・ヒエン・ミンが滞在時に実施したワークショップを、美術館スタッフの指導によりオンラインで体験。ベトナムの祭礼やお祝いで使用する伝統的なお面（彩色が施されていない白いもの）を参加者に事前に配布し、新しいデザインを考えて彩色を行った。作品完成後は、ゲストとしてレ・ヒエン・ミンがオンラインに加わり、参加者にコメントして交流を行った。

日　時：7月24日（土）10：00～13:00
参加者：子どもと保護者15人（保護者6人、子ども9人）
会　場：会議室、参加者自宅、アーティスト自宅

ワークショップ「ベトナムのお面を作ろう！」

◇ワークショップ「マスキングでインドの文様を作ろう！」(対面開催)
　クルパ・マーヒジャーが滞在時に実施したワークショップを体験。参加者は、インドで伝統的に居間や庭の床などに描かれる文様「ランゴリ」を参照し、液体ゴムを使って文様を描き、彩色した。完成後に、クルパ・マーヒジャーとオンラインでスタジオを結び、鑑賞会を行った。
日　時：11月27日(土)、28日(日)10：00～14:30
参加者：子どもと保護者　27日　21人(保護者9人、子ども12人)、
　　28日　23人(保護者10人、子ども13人)
会　場：交流スタジオ、アーティスト自宅

ワークショップ「マスキングでインドの文様を作ろう！」

第３期　寺社を訪ねて

ポスター

2021年9月23日（木）～12月25日（土）
　福岡の寺や神社を作品発表の場としたり、その歴史や文化を題材にした4人のアーティスト(カム・タン・サリアンカム〔ラオス〕、キム・ジミン〔韓国〕、ヴー・キム・トゥー〔ベトナム〕、チュア・チョンヨン〔マレーシア〕)による滞在制作作品を展示。アジアのアーティストたちが感じた福岡の姿を紹介した。

関連記事

あじびレジデンスの部屋　第１期

2021. 4　プラスフクオカ（WEB）
2021. 4　西日本新聞me（WEB）

あじびレジデンスの部屋　第２期

2021. 6　プラスフクオカ（WEB）
2021. 6　西日本新聞me（WEB）
2021. 6　ふくおか生涯学習ひろば（WEB）

あじびレジデンスの部屋　第３期

2021. 9　アートアジェンダ（WEB）
2021. 9　ふくおか生涯学習ひろば（WEB）

教育普及事業

◎団体見学

九州産業大学	32人	4月25日
精華高等学校	26人	6月22日
福岡市教育委員会指導部教育相談課適応指導教室「すまいる学級」	7人	7月 2日
九州産業大学	42人	7月 4日
精華高等学校	21人	7月 6日
精華高等学校	25人	7月13日
筑紫女学園大学	11人	7月31日
北九州市立志徳中学校	18人	10月15日
北九州市立東谷中学校	12人	10月15日
北九州市立菅生中学校	37人	10月17日
福岡市立有田小学校	102人	11月12日
九州産業大学	14人	11月13日
南当仁小学校	139人	11月26日
星槎国際高等学校　福岡東学習センター	30人	12月10日
麻生外語観光＆製菓専門学校	14人	1月13日
福岡女学院中学校	62人	2月10日
近畿大学国際学部	12人	3月12日
福岡県立特別支援学校北九州高等学園	13人	3月15日

◎博物館実習
（8月から12月までの中で10日間程度）

佐賀大学	1人
西南学院大学	1人
筑紫女学園大学	1人
福岡大学	1人
九州産業大学	1人

ミュージアム施策事業

1　福岡ミュージアムウィーク

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。トークショーのみ延期開催

「出会いの場」「知識の場」「発見の場」としての美術館・博物館の役割をより多くの人々に知ってもらうため、5月18日の「国際博物館の日」を記念して福岡市内の文化施設が連携し、5月15日から23日まで様々なイベントを開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。下記のトークショーのみ延期開催した。

□トークショー　※延期開催

大石始トークショー「映像で巡るアジア音楽のいま」

2022年2月26日（土）14:00～16:00
話し手：大石始（ライター／旅と祭の編集プロダクション「B.O.N」主宰）
参加者：100人（来場48人、Zoom52人）
場　所：あじびホール

関連記事

2022. 2. 1　福岡市政だより「アジア美術館　福岡ミュージアムウィーク 大石始トークショー『映像で巡るアジア音楽のいま』」

関連放送

2022. 1.31　LOVE FM「Departure Lounge」

大石始トークショー①

大石始トークショー②

2　博多旧市街まるごとミュージアム

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

博多旧市街ライトアップウォークと連携し、ライトアップ会場である寺社に国内外のアーティストによる多彩なアート作品を展示し、「古い」と「新しい」が混在した新たな博多の魅力を発信する予定だった。

ボランティア事業

新型コロナウイルス感染症対策による2度の休館(5月～6月、8月～9月)中は活動できなかったため、年間を通して十分な活動ができなかったが、可能な範囲内で工夫しながらグループごとに活動を行った。

ボランティアによる対面の来館者サービスについては、施設案内・作品解説は、休止を継続し、アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせは3月から再開した。

総会は8月書面評決で行い、1月と3月に活動支援ボランティア主催による研修会を行い、3月に総会を開催した。

活動内容およびグループ別のべ人数（ひとりが複数のグループで活動可）

2022年3月現在

活動区分	活動内容	計
案内・解説	アジアギャラリーの作品解説や施設案内	69
図書資料	アートカフェの書架整理および蔵書点検	28
アーカイブ	新聞・雑誌掲載記事のスクラップと整理	45
広報	美術館広報誌や特別企画展などの印刷物の発送	19
読み聞かせ	絵本や紙芝居の読み聞かせ	33
活動支援	ボランティア向けブログの作成やメール配信、研修や親睦会の企画	15
交流	滞在美術作家・研究者の活動や地域交流イベントなどのサポート	191
のべ人数		400
ボランティア登録者数		191

活動

【案内・解説】

4月1日より活動開始。4月24日のミーティングで、他館のボランティアによるオンラインの取り組みを参照しながら、当館の活動について検討を行った。当館のインスタグラムに、ボランティアによる作品紹介コーナー「私の推し作品」を設けることとし、以降、有志による投稿を行った(2022年3月まで計29作品)。2022年2月より、学校見学(60人程度)に限定したボランティアによる案内・解説を再開するため、1月22日のミーティングでビデオを使用したギャラリートークの研修を行った。

【図書資料】

4月11日より活動開始。休館期間を除く毎月、ミーティングを行った。展覧会に合わせて、アートカフェのおすすめ本に紹介文を付けて展示を行った。アートカフェの書架整理や利用者の見守りなどを行った。2022年2月16日に蔵書点検を行った。

【アーカイブ】

4月4日より活動開始。コロナ禍につき、密を防ぐために活動場所を増やして、新聞・雑誌のスクラップをする活動を継続的に行った。8月1日、3月5日にミーティングを行い、進捗状況および作業の際の留意点などを共有した。

【広報】

6月24日より活動開始。「おいでよ絵本ミュージアム2021」展の印刷物の発送を行った。6月30日、12月14日、2022年3月30日に季刊広報誌「あじびニュース」の発送を行った。10月13日に「わが黄金のベンガルよ」展、11月9日に「ヒンドゥーの神々の物語」展の発送を行った。終了後に定例ミーティングを開催して近況などを報告し合った。

【読み聞かせ】

4月より活動開始。12月までは来館者向けの読み聞かせができなかったため、実践練習を行った。1月29日、2月12日、3月12日に「ヒンドゥーの神々の物語」展の関連イベントとして朗読会を実施した。2022年3月から、来館者向けに「アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ」を再開した。

【交流】

レジデンス事業が新型コロナウイルス感染症対策のため延期となり、活動は行わなかった。

【活動支援】

4月2日より活動開始。月例ミーティングをオンラインと対面で行った。8月19日に岩永悦子新館長へのインタビューを行いブログに掲載した。9月にボランティア全員を対象に「アジ美ボランティア通信ブログ」についてのアンケートを行い、よりよく活用してもらうための見直しを行った。2022年1月、3月に「ヒンドゥーの神々の物語」展に関連した研修会(2022年1月、3月)を企画・開催した。

《活動支援主催によるボランティア催事》

◇第1回研修会
「『ヒンドゥーの神々の物語』開催記念　ハッピー・ヒンドゥー・トーク　～神々しい新年を皆さまとともに～」
2022年1月16日
講師：中尾智路(学芸員)、五十嵐理奈(学芸員)

◇第2回研修会
「みんなで楽しくヒンドゥーの神様を学ぼう！」
2022年3月2日・23日　　ボランティアによる自主研修

□その他

◇新型コロナウイルス感染症対策による活動休止
(2021年5月12日～6月20日、8月9日～9月13日)

◇令和2年度ボランティア総会
9月14日　書面評決

◇令和3年度ボランティア総会
2022年3月27日　対面とオンライン

館長インタビュー

第１回研修会

第２回研修会